

教員名	高島 元洋 (TAKASHIMA Motohiro)
所 属	文教育学部人文科学科哲学講座
学 位	博士 (文学) (1993 東京大学)
職 名	教授
URL / E-mail	takasima@cc.ocha.ac.jp

◆研究キーワード

倫理学 / 日本倫理思想史 / 道德教育 / 感情 / 普遍性と特殊性

◆主要業績

- ・「日本思想の可能性について」、『お茶の水女子大学「魅力ある大学院教育」イニシアティブ〈対話と深化〉の次世代女性リーダーの育成 平成17年度 活動報告書 シンポジウム編』pp.122-127(2006年11月)
- ・「近世日本の合理主義」、『お茶の水女子大学「魅力ある大学院教育」イニシアティブ〈対話と深化〉の次世代女性リーダーの育成 平成18年度 活動報告書 シンポジウム編』pp.227-233(2007年3月)
- ・「未来を拓く主体性の育成と人間としての存在に関する教育」、『中等教育資料』第846号、ぎょうせい、pp.14-17 (2006年、11月)
- ・「仏 (感覚可能な世界)・仏性 (感覚不可能な世界)と仏向上 (さとり) 一道元の意識構造について」、『倫理学年報』56、pp.259-268 (2007年、3月)

◆研究内容

日本思想を極東の特殊な思想として理解するのではなく、これを手掛かりとして人間の普遍的な倫理そのものを考察する。主とする専門領域は、江戸時代の思想・文化、特に儒教であるが、古代 (神道)・中世 (仏教)をも視野に入れながら日本思想全体を概観して研究する。また現代の倫理の問題 (人倫=人間関係)に関しても、特に超越的な存在 (神・仏・天など)や他界の観点を考慮しつつ、心 (理性)に対する身体 (感情)という問題として再考する。

A 個別研究 (モノグラフ) としては、1 儒教関係 (この研究の一部は「比較日本学研究センター」のプロジェクトである)、2 儒教以外の研究 (仏教・武士道・演劇など)、3 道德教育関係があり、また B 方法論の分野の研究もある。

◆教育内容

学生に対する教育内容は、主として「講義」と「ゼミ」である。「講義」は教員が中心となる授業であり、「ゼミ」においては学生が中心となってレポートをする。問題は学生の主体性が充分育成されているかということであるが、現状は「講義」の趣旨はよく理解されており、「ゼミ」において活潑な議論がなされていることから、教育は期待どおりに機能していると判断している。

また「魅力ある大学院教育イニシアティブ：〈対話と深化〉の次世代女性リーダーの育成」(平成17年)のさまざまな事業においては、フランスにおけるジョイント教育・シンポジウムの開催 (コレージュ・ドゥ・フランス、ブレイズ・パスカル大学) を実現した。このことは学生にとっては、海外で積極的に発表し、学生同士また研究者と交流することが刺激となって、博士論文執筆への動機付けを強化したと考えている

◆共同研究例

「比較日本学研究センター」の研究プロジェクト

◆将来の研究計画・研究の展望

日本思想は、インド・中国などの影響にあって独自のものはないと考えられているが、実際はきわめて洗練された普遍的思想内容を形成しており西洋思想にもひびいてくるものがある。今日海外との文化交流は、能・歌舞伎・茶道だけではなく文学・演劇・美術など高度に専門的な学問分野においても活発である。今後重要な研究の方向として、日本思想は特殊であるとする誤解を是正し、正確な思想・文化を発信することがある。

◆受験生等へのメッセージ

授業においては、テキスト（資料）を正確に読みとる訓練と相互の討論をとおして、資料の意味、著者が何を考えていたかを時間をかけて考えたいと思います。今日さまざまな政治問題・社会問題が日々の TV、新聞等マスメディアによって伝えられていますが、重要なことは結局は自分自身がどのようにこの情報を受けとめるかということです。マスメディアはいろいろな意見を羅列しますが、場合によっては「言論の自由」が「無責任」と同義語となることもあります。いずれにせよテキスト（資料・情報）を正確に読みとる責任は個々人にあるということです。